



さとう けいすけ  
**佐藤 啓輔**

所 属 復建調査設計株式会社  
資 格 博士(工学)、技術士(総合技術監理部門)、技術士(建設部門)

対象インフラ  
交通基盤(主に道路)

専門分野  
交通インフラの経済分析、  
都市インフラの経済分析

対応可能地域  
全国

連絡先  
keisuke.sato@fukken.co.jp  
※メール送付の際は「@」を「@」に変えて送信ください

相談方法  
対面、オンライン、電話

## ◆ 経歴・各種委員・講師経験など

2002年3月

鳥取大学大学院工学研究科博士前期課程社会開発システム工学専攻修了

2002年4月

復建調査設計株式会社 入社

2011年10月～2016年3月

神戸大学大学院工学研究科博士後期課程市民工学専攻

2018年5月～現在

復建調査設計株式会社 東京支社

2021年度～2022年度

第二技術部 社会基盤計画課 課長

2021年10月～2022年3月

土木学会土木計画学研究委員会 委員

2022年4月～2023年3月

鳥取大学 非常勤講師  
東京都立大学 非常勤講師

## ◆ 分析支援可能な知識・経験

### 【主な分析実績】

- ・道路ネットワーク、道路空間再編等の交通基盤整備による経済効果の推計
  - ・道路整備の経済結果をふまえた産業政策の立案(ストック効果最大化施策の検討)
  - ・自然災害による交通途絶時の経済被害額・被害軽減効果の推計
  - ・コンジョイント分析を用いた災害時の不安感軽減効果の推計 など
- ※その他、事業評価にも精通しています。

### 【主な分析スキル】

- ・空間的応用一般均衡(SCGE)モデル、生産関数アプローチ
  - ・統計的因果推論(操作変数法、差の差法)
  - ・コンジョイント分析
- など

### 【これまでの経験をふまえたメッセージ】

約20年に渡り、交通基盤および都市基盤の整備に関する経済分析を行ってきました。国土交通省(本省、地方整備局)をはじめ、高速道路会社、県・市等での業務実績を多数有するとともに、汎用的な経済モデルの開発実績や、欧州等における経済分析動向についても知見があります。ブラックボックスになりがちな経済効果を出来る限り分かりやすく説明するとともに、推計結果をどのように政策的に活用すべきかについて、推計値の限界をふまえてご支援します。

## ◆ 業務・学術論文実績

### 【業務実績】

- ・社会資本がもたらす経済効果の調査業務(国土交通省総合政策局社会資本整備政策課)
- ・令和6年度 道路事業に係る多様な効果の検討業務(国土交通省道路局企画課評価室)
- ・R6首都圏高規格道路ネットワーク整備効果分析業務(国土交通省関東地方整備局道路部計画調整課)
- ・令和6年度中国管内幹線道路の整備方針検討他業務(国土交通省中国地方整備局道路部道路計画課)
- ・令和7年度 経済波及効果算出業務(西日本高速道路株式会社) など

### 【学術論文実績(査読付き)】

- ・小池淳司・佐藤啓輔・川本信秀, 空間的応用一般均衡モデル「RAEMJ-Light」を用いた道路ネットワーク評価～地域間公平性の視点からの実務的アプローチ～, 土木計画学研究・論文集 Vol.26 no.1 2009年9月.
- ・Atsushi KOIKE, Lori TAVASSZY, Keisuke SATO and Toshiyuki MONMA: Spatial Incidence of Economic Benefit of Road-Network Investments: Case Studies under the usual and Disaster Scenarios, Journal of Infrastructure Systems, Volume 18, Issue 4, ASCE, 2012.
- ・佐藤啓輔, 小池淳司:SCGEモデルを活用した道路整備のストック効果最大化検討, 土木学会論文集D3(土木計画学), 2020年76巻2号 p. 114-127.
- ・Keisuke SATO, Shintaro KATAYAMA and Atsushi KOIKE: Regional economic impacts assessment using SCGE model: Investigating strategic coordination between road network development and industrial policies, Transport Policy, Volume 172, 2025. など

## ◆ 取組事例

経済モデルを用いたストック効果最大化の取り組み事例をご紹介します。本事例は、整備した道路ネットワークが地域の経済活動にどのように影響を及ぼしているかについて、そのポテンシャルを経済モデル(SCGE)を用いて推計し、統計データによる道路整備前後の経済動向の変化と比較した上で、道路のポテンシャルがどの程度発現している可能性があるかを地域・産業別に検証した取り組みです。

経済効果(ポテンシャル)と実績に乖離がある場合、道路のポテンシャルが十分に発現していない可能性があります。一方、両者が同じ傾向を示す場合、道路のポテンシャルが顕在化している可能性があります。ただし、統計データから分かれる経済動向の実績には道路整備以外の様々な要素が含まれているため、この比較結果をふまえて、地方公共団体の商工部局や道路沿線に立地する企業等との議論を行い、道路整備がトリガーとして生じている変化を詳細に把握することが重要です。

このような比較分析や調査をふまえて、道路整備による経済効果のポテンシャルを顕在化・最大化させるための産業政策の立案を行いました。

